

W・M・フォースター『インダへの道』

都留文科大英文学科助教 大平 栄 子

近年イギリスの小説家、E・M・フォースター（一八七九—一九七〇）の作品がブームを呼びおこしている。

私が学生の頃（そう遠い過去ではありません）フォースターという小説家は日本ではあまり名前が知られておらず、作品の邦訳の多くは国会図書館へでもでかけなければ入手困難であった。ところが最近ではその作品が次々と映画化されて話題を呼び、（『眺めのある部屋』、『インドへの道』、『モリス』、『ハワーズ・エンド』など）小説も書店の店頭に平積みされるようになった。

フォースターはもともイギリス本国では高い評価をうけ、国民に最も親しまれた作家の一人であった。それがこの頃になってようやく日本でも読者層が広まってきたということだろうか。ここでは彼の代表作『インドへの道』（一九二四）をとりあげ、小説の魅力と小説全体に貫かれている思想について考えてみることにしたい。

異にし、支配する側とされる側に位置する二人の間わりを通して人間関係の可能性が探究されているのである。

この「人間関係」というテーマこそはフォースターにとって生涯を貫く最も重要な課題であった。彼はエッセイの中でこの問題についてくり返し言及している。第二次大戦下の一九三九年に書かれた「私の信条」というエッセイそれは「私は主義というものを信じない」という書き出しで始まる。では、唯一信ずるにたるものとして個人と個人との人間関係をあげている。

しかし、『インドへの道』は単なる友情についての楽観と讚美に終始するような作品ではない。二人の関係の転換点となったのはマラーバール洞窟での事件である。アジズは英国人女性アデラとその婚約者の母親ムア夫人をマラーバール丘陵への旅に招待する。ところが、その好意が仇となって、洞窟内でアデラを暴行しようとした嫌疑で彼は逮捕されてしまうのである。アジズの無実を信じるフィールディングは、英国人の社会から追放されることを覚悟で、アジズの弁護活動に奔走する。だが、公平な魂の持ち主である彼は、裁判の

途中で告発を取り消したため英国人社会からつまはじきされたアデラを保護しようとし、今度はアジズとの関係がきまらずいものとなってしまうのである。

友情を信じつつ、一方ではたえずそれに疑問をつきつけてゆく、こうしたストーリーの展開はいかにも懐疑主義者たるフォースターらしいところであろう。しかしながら、この小説の読者に、根底から人間関係を危機にさらすものという印象を与えるのは、そこに描かれた友情の挫折よりは、むしろマラーバール洞窟に象徴されるインドそのものではないだろうか。それを端的に示すのがマラーバール洞窟でのムア夫人の体験である。彼女は洞窟の中で異様な「反響」を耳にし、それ以来いよいよ虚無感に支配され、キリスト教的な「愛」にも人間関係にも意義を見出せなくなってしまう。圧倒的な存在感をもつムア夫人ですら、宇宙としてのインドの自然の中では極少の存在にすぎない。インドのもつ圧倒的エネルギーが夫人に代表されるヨーロッパ的な価値観や人間関係を究極に至るまで相対化してしまうのである。

確かに、この作品は登場人物の人間関係によって生じるドラマと

いうより、宇宙としてのインド、その混沌とした世界についての「瞑想」（フォースター自身のことば）という感がある。しかし、一方で、フォースターはインドという巨大な背景が人間関係のテーマをのみこもうとする瀬戸際ところで踏みとどまり、テーマを貫徹しているのである。

フォースターは作品は無意識から生まれてくると語っている。あるいは、読み手が感動するのは、作品が読者の心の深層の部分に刺激するためであると述べている。私たちが『インドへの道』を読んだ、フォースターの他の作品にもまして不思議な感慨に包まれるのは、この小説が作者の無意識の世界を言語化したものだからではないだろうか。

小説において作者の無意識の世界を象徴するのは、おそらくは、あらゆる秩序や価値を解体し、の

みこむ「混沌」と「エネルギー」に満ちたインドの世界であろう。小説に描かれたインド世界を通じて作者のメッセージが読者へと伝達され、それが心の奥底で反響をくり返す。それがこの小説の不思議な魅力を形づくっているのではないだろうか。

ハローワーク都留

「高齢者職業相談会」を開催！！

日時 10月23日（金）
午後2時～4時30分
場所 アピオ都留
☎（45）2222
問合先 大月公共職業安定所都留出張所
☎（43）51441

ご存知でしょうか

10月は高齢者雇用促進月間です

満65歳以上の高齢者を雇用された場合でも「高齢者雇用奨励金」が県より「長寿山梨振興財団」を通して、1カ月1万円、12カ月間支給されます。（個人の家庭で、高齢者を雇用した場合も該当します。）

さらに都留市に所在する事業所（家庭）が、都留市に居住する満65歳以上の方を雇用した場合も同じ金額が同じ期間「都留市」より支給されます。

どうか、この機会に、知識・経験・技能・豊かな高齢者の雇用をお考えください。

また、高齢者の皆様、どうか、お気軽にご来所くださいますようお願い申し上げます。

上谷2丁目2-5 消防署となり
都留高齢者能力開発情報センター
☎（43）7220